

MOTTO
もっと

MOTTO

もっと

アート
ART

プロジェクト

PROJECT

文化芸術をもっと
楽しもう



NERIMA MOTTO MOTTO ART PROJECT

練馬区 の

MOTTO MOTTO ART プロジェクト PROJECT

って
なんだろう



皆さんの生活を文化芸術の力でもっと豊かにしたい。そんな想いで進めてきた練馬区の文化芸術の取組をアップデートする、それが“もっともっとアートプロジェクト”です。

皆さんに「練馬区=文化芸術のまち」と思ってもらえるよう取り組んでいきます。

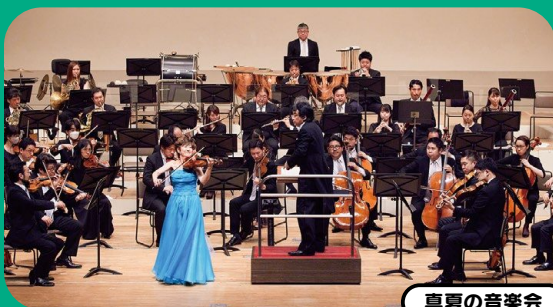
これまで

都心に行かずとも文化芸術を楽しめる環境づくり

「みどりの中で誰もが優れた文化芸術を楽しめるまち」の実現を目指して…
「みどりの風 練馬薪能」や「真夏の音楽会」など、練馬区ならではの質の高い取組を実施



練馬薪能



真夏の音楽会

UPDATE

これから目指すのは

文化芸術を もっと気軽に もっと身近に 楽しめるまち

練馬区民の皆さん800人に聞きました!

Q 「練馬区の文化芸術」といえば?

- 1 映像文化 (アニメ、漫画、映画など)
- 2 音楽 (オーケストラ、オペラ、合唱など)
- 3 伝統芸能 (能、狂言、歌舞伎など)
- 4 美術 (絵画、彫刻、工芸など)

😊 ジャパンアニメーション発祥の地で有名ですね

😊 開放感がある野外でのコンサートが最高!

😊 狂言師の野村万作さんが名誉区民だから

Q 文化芸術をもっと身近に感じるためには?

- 1 安価に楽しめる
- 2 気軽に参加・体験・鑑賞
- 3 色々な場所でのイベント
- 4 日常で触れられる

😊 気軽に参加できるイベントがたくさんあると嬉しい

😊 安いと回数が多く行けますね

😊 ヨーロッパみたいに街でもやっているといい

Q 練馬区に期待することは?

😊 入門的な催しが増えるといいのでは

😊 新しい美術館の完成が楽しみ

😊 若いアーティストの応援をしてほしい

😊 大人向けの体験イベントも参加してみたい

😊 子どもたちが芸術に触れる機会を増やしてほしい

😊 保育付きのコンサートとかあると行きやすいかな

宇賀なつみさんにも聞いてみました!

大泉出身なので、やっぱりアニメ・漫画です! 大泉学園駅の発車メロディが『銀河鉄道999』だったり、モニュメントも並んでいますからね。漫画『島耕作』シリーズで石神井公園のシーンがたくさん出てるのも大人になってから知りました。



3つの コンセプト で UPDATE

2

参加・体験できる
機会を充実し、
文化芸術に

もっと 親しむ



UPDATE

日常でアートに出会える /
まちなかでパフォーマンスを
楽しめる / 皆さんが“主役”
になれる

「ちょっと気になる」「なんだか面白そう」
そんな小さなきっかけで、文化芸術との距離が
近くなるはず。様々な場所で気軽に参加・体験
ができる機会を充実し、「文化芸術にもっと親
しめるまち」をつくります。

1

「練馬区ならではの」の優れた文化芸術を

もっと 身近に



美術館や練馬文化センターなどの文化施設、練馬にゆかりがあるトップアーティストなど練馬区には、身近に優れた文化芸術を楽しめる環境が豊富です。こうした練馬の魅力を活かし、子どもから大人まで、誰もが「優れた文化芸術をもっと身近に楽しめるまち」をつくります。

UPDATE

ホンモノを“体感”できる / 子どもも伸び伸び楽しめる / 興味を持つ
きっかけとなるような情報発信

3

地域の文化芸術の
取組を応援し、
文化芸術を

もっと 広げる



UPDATE

皆さんとともにつくる / 地域の文化芸術情報を届ける仕組みをつくる / 文化芸術を通じてまちを盛り上げる

区内では、区民の皆さんによるイベントが展開されています。イベントに参加する区民の皆さんを応援するとともに、まちの魅力を多くの方に届ける「文化芸術がもっと広がるまち」をつくります。

宇賀なつみさんに聞く

文化芸術 の魅力

文化芸術は私にとって“おやつ”!?

フリーアナウンサーとして多忙な日々を送る傍ら、各地の美術館を巡るなど、「アート」を楽しんでいる宇賀なつみさん。子どものころ、練馬で触れた文化芸術の思い出や、自身が考える楽しみ方などについて、語っていただきました。

撮影場所：練馬文化センター大ホール



ー本日お越しいただいた練馬文化センターでは、音楽や演劇、能・狂言など様々な公演を行っています。練馬文化センターに来たことはありますか？

中学生のときに所属していた吹奏楽部のコンクール会場が練馬文化センターでした。大会に向けて一生懸命練習して、「あー、今年は銀賞だった」「金賞目指したい」みたいな感じで頑張った青春の場所です。

あと、学校の合唱コンクールでも毎年来ていましたね。3年生の時はピアノ伴奏をして、学年で優勝したのはいい思い出です。

ー子どものころ、文化芸術に触れる機会は多かったですか？

出かけることが好きな両親だったので、休みの日は必ずどこかに行っていて、美術館にもよく行っていました。

練馬区立美術館も幼いころよく行ってましたね。どちらかという両親に連れていかれていた感じですけど(笑)。あと、「ちひろ美術館・東京」は私の“デビュー”美術館です。

そんな家庭で育ったので、今でも旅行先では美術館を探してしまいます。アートそのものも好きですが、静かで、凛としていて、みんなが集中している空気がすごく好きですね。

あと、コンサートやライブにもちょこちょこ行ってました。ステージと客席があって、生演奏っていいな、という感覚はあったと思います。

ー小さいころの体験はとても大事なことです。

生で演奏を聞いたりすると、「こんなに大きな音がでるんだ」「こんなに優しい音色なんだ」とい

う驚きや発見があると思います。ぜひ若いうちからそのような体験ができるといいですよ。

あとは、やっぱり「文化芸術」というと、何か知識があるんじゃないか、お勉強っぽくなるんじゃないか、という少し難しいイメージになりがちですけど、実はすごく「自由」だし、私の中では「おやつ」みたいな感覚です。生きていくために必要不可欠ではないけれど、それがあると人生が豊かになる、日常にちょっと彩りができますね。チョコレートやアイスを食べるぐらいの気持ちでアートを見たり、触れたりできるといいんじゃないかな、と思っています。

ーアートを見に行くのは学生のころからですか？

そうですね、子どもの頃からのルーティンみたいになっています。

そんなに高価なものではないですが、例えば、アンティークの家具屋さんや美術館に行った時に「あ、この絵いいな」と思ったら、買うんです。それを飾ると部屋に奥行きが出る感じがします。色彩もそうだし、時代感覚も。小さくてもいいんですけど、絵を1枚飾るだけで生活がすごく豊かになるので、そういうことはしてますね。

ーこれまでの体験が今の生活に影響を受けていることはありますか？

これまでとにかくシャワーのようにじゃぶじゃぶ浴びていたからこそ、今はあまり「文化芸術」が怖くないというか、ハードルが高いと思っていなかったと思います。

簡単な日記を書いているんですけど、そこに今日見たものや感じたことをちょっとしたイラストで描いたりしています。ホントに下手なんですけど、絵心がある・ないではなくて、描くか・描かない



かだけだと思うんですよ。

別にそれを額に入れて売るわけではないし、自分が自分のために描いているだけだから、なんだっていいわけじゃないですか。

とにかく、たくさんシャワーを浴びてきたことで表現の方法も豊かになっている気がしています。

—アートとの垣根があまりない、日常の中に「アート」がある、という感覚をお持ちなんじゃないですか。

ドライフラワーとか、ちょっとした壺や花瓶を見て、「これをあそこに置いて、あれと合わせたい」みたいに考えるだけでもアートなのかもしれません。

あと、ヨーロッパとか海外の美術館に行くと学生は入館無料だったりして、若い人がアートに触れやすい雰囲気があるんですよ。その点は日本

はちょっとできてないかな、って思ったりします。

—宇賀さんが考える、文化芸術を楽しむポイントやヒントなどがあれば教えてください。

以前アーティストの方が「作品は完成して世に出したら、あとは見る皆さんの自由なので、『こう見てください』というのは、実はあまりない」とおっしゃっていたのが印象的です。「もっと自由に見ていいんだ」「気軽に楽しんでいいものなんだ」と思えるようになったんですよ。

例えば、ゴッホ展を見に行きます、となったときに、ゴッホの経歴を全部調べて作品をインプットして、これはここがポイントだ、という風に見ることが楽しいと思う人もいるだろうし、ふらふらと行って、説明も読まずに気になったものだけをじっくり見るのがいいと思う人もいる。

「今日は、あれが好きだったな」とか「あの絵が一番惹かれたな」ということだけが何となく体の中に残っていれば、今後、服を選ぶ時や家具を買う時に影響するかもしれないし、何かを決めるときに決断が変わるかもしれない。その程度でいいのかなと思います。

私もプロフィールの「好きなもの」に「アート」って書いていますが、好きなだけで別に得意なわけではないので。そういう意味で「好きなもの」にしています。

—今後、文化芸術の分野でやってみたいことや企画してみたいことはありますか。

絵はちゃんと習って描いたことがないので描いてみたいですね。趣味でそういうことがいつかできたらいいな、と思っています。なので、簡単なポイントを教えてもらえるワークショップとかあると楽しそうですね。

あとは、アートの「蚤の市」みたいな感じで、自分で作ったものや家にある絵を交換したり、安く売り買いできる場所があったらいいな、と思います。眠っていたものが使ってもらうことで、生きるアートになりますよね。

シェアしたり、他の人に使ってもらおうという方が今の時代にも合ってるし、自分にとってはいらなくても誰かにとってはお宝かもしれないですから。そこで「つながり」が生まれるのもいいですよ。

—最後に、皆さんに知ってほしい「練馬区の魅力」を教えてください。

練馬区のいいところは、23区内だけど自然が多く残っているところですね。緑が多くて、空も広くて、畑もたくさんある。

そんな自然が多い練馬区では、「自然×アート」みたいなこともできるだろうし、屋外でのコンサートやワークショップとかも開催しやすそうですね。まずは場所があること、実施できる環境が整っているということがとても大切です。そういう意味では一番可能性を秘めているのではないかと感じています。

あとは、アニメ・漫画のイメージがある「大泉」や学生が多い「江古田」など、まちに特色があるところがたくさんあるので、それを活かした展開も期待したいですね。



PROFILE 宇賀 なつみ (うが・なつみ)

東京都練馬区出身。2009年立教大学社会学部を卒業し、テレビ朝日入社。入社当日に「報道ステーション」気象キャスターとしてデビューする。その後、同番組スポーツキャスターを務め、「グッド!モーニング」「羽鳥慎一モーニングショー」等、情報・バラエティ番組を幅広く担当。2019年に同局を退社しフリーランスとなる。現在は、テレビ朝日系「池上彰のニュースそうだったのか!!」フジテレビ系「土曜はナニする!」TOKYO FM「SUNDAY'S POST」等、テレビ・ラジオを中心に幅広く活動。初エッセイ【じゆうがたび】(幻冬舎)も、好評発売中。

音楽

本格クラシックを
身近に味わえる
コンサート



真夏の音楽会

誰でも気軽に
参加できる
野外コンサート



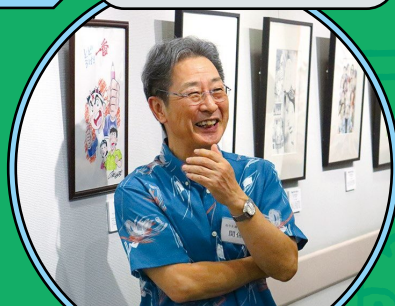
ねりまの森の音楽祭

練馬区ゆかりの
名作を大スクリーンで
楽しめる映画上映会



ねりぶんシネマ day

ねりま漫画サロン



漫画家が世界一住んでいる!?
漫画家に出会えるイベント

ジャパンアニメーション発祥の地!
練馬区ゆかりのキャラクター像が並ぶ



大泉アニメゲート

ホールでも・野外でも・お家でも!?

練馬区で楽しめる

文化芸術 いろいろ

ゆる〜く参加 できるものから
ビシッと決まる 本格派まで
文化芸術イベント が盛りだくさん!
自分のスタイルに合った
「練馬の文化芸術」を
見つけて楽しんでください!

能楽体験ワークショップ



能に触れる
参加型講座

伝統芸能



みどりの風 練馬新能

野外で行う幻想的な
能・狂言公演

「祭囃子」
の公演



郷土芸能 ねりま座

郷土文化

練馬の歴史や
伝統文化を
学べる博物館



石神井公園ふるさと文化館

区が誇る映像文化を発信するウェブサイト



映像∞文化のまち ねりま

映像文化

子どもたちが「アート」に
触れる・体験できる



子どもアートアドベンチャー

ねりまのまちをアートが彩る
地域密着型イベント



アートマルシェ

日本の近現代美術を
中心とした
斬新な視点での
企画展



練馬区立美術館

美術



優れた文化芸術を “もっと身近に”

区民の皆さんが都心に行かずとも、
トップアーティストの公演を楽しんでいます

参加・体験機会を充実し “もっと親しむ”

まちなかにアートが溢れ、日常の中で
文化芸術を楽しむことが当たり前になっています

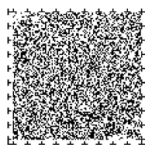
地域の取組を応援し “もっと広げる”

みんなが地域の文化芸術イベントを楽しみにしており、
文化芸術の「輪」が広がっています

文化芸術を“もっと”楽しんでいただき、
皆さんの生活が“もっと”豊かになるよう、
一緒に「文化芸術のまちねりま」をつくりましょう！



発行 練馬区 地域文化部 文化・生涯学習課
電話 03-3993-1111 (代表)
メール BUNKASHOUGAI@city.nerima.tokyo.jp
令和8年(2026年)3月



音声コード「Uni-Voice」
専用アプリなどで読み取ると、
内容を音声で聞くことができます。

